

様式 4

平成 24 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 25 年 5 月 30 日

学 長 殿

所属部局・職名 人間発達 教授

申 請 者 名 鈴木 庸裕

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・ <u>学会等</u>) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事 業 名	日本学校ソーシャルワーク学会東北部会・シンポジウム 子どもの生活基盤と学校ソーシャルワーク
事業実施期間	平成 25 年 3 月 23 日
成 果 の 概 要	<p>主催：日本学校ソーシャルワーク学会東北地区部会、共催：福島スクールソーシャルワーカー協会、後援：福島県社会福祉士会、福島県教育委員会により開催した。</p> <p>県外避難者への支援の歩みを振り返り、これからスクールソーシャルワーカーが学校・家庭・地域とのつながりの中で、何を考え、何を行動していくかなければならないか。</p> <p>主に福島内のスクールソーシャルワーカーと県外避難で関わりのある関西地区的スクールソーシャルワーカーや支援関係者の現実の声をもとに、パネルディスカッション形式で、このテーマに臨んだ。2年が過ぎ子どもやその家庭を取り巻く教育、保健、福祉、心理、医療、司法等の領域とのネットワークのなかで問い合わせ直すもので、教育機関・学校園等の教職員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、学校心理士、教育相談員、児童福祉・保健福祉機関の相談員、市民、学生・院生など、98名の参加であった。内容は、基調講演として、「震災後のスクールソーシャルワーカーの取り組み」鈴木庸裕（福島大学）、あと、パネルディスカッションでは「県外避難児童生徒への支援をめぐる広域連携について」をテーマに「帰還家族への対応」（福島県スクールソーシャルワーカー）、「京都・関西での取り組み」佐々木千里氏（京都市教育委員会）、「自治体における広域連携について」野田正人氏（立命館大学）で実施。</p> <p>震災 3 年目をめぐる課題と今後のあり方について、有意義な議論ができた。</p>